

日本大学国際関係学部 校友会会報

第55号

令和6年11月15日発行



「母校愛（愛校心）」



国際関係学部校友会会長

横山雅人

国際関係学部校友会の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は国際関係学部校友会の活動にご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

国際関係学部校友会は本年七月六日にみしまプラザホテルで総会・懇親会を開催いたしました。総会では令和五年七月（令和六年六月における物故者二十二名（ご連絡をいただいた方）の報告をいたしました。特にお世話になった顧問の柴田正先輩、常任幹事の瀬川宏先輩（共に令和六年四月逝去）のお話を総会挨拶でさせていただきます。柴田先輩は平成十二年に三島同窓会の第九代会長、平成十四年に国際関係学部校友会初代会長を歴任され、私が会長に就任してからも優しく、厳しく指導していただきました。瀬川先輩は箱根駅伝の応援を三島商工

会議所一階のテレビ観戦でしていた頃に準備運営で一緒に声をもらして応援した思い出があります。平成十八年に第二代会長に就任し、九年の長きにわたり校友会に尽力され、先にお亡くなりになった相田信次先輩と柴田正先輩には学部校友会より表彰をさせていただきます。お亡くなりになられた皆様のご冥福をお祈りいたします。

同じく総会挨拶の中で、母校愛（愛校心）についてもお話をさせていただきます。学部校友会の活動を活性化していくキーワードにこの「母校愛」があると最近感じています。インターネットで「母校愛」を検索すると慶応義塾大学や早稲田大学が上位に出てきますが、残念ながら日本大学は出てきません。大学が大きいすぎる故なのかもしれません。せめて出身学部に愛着をもってほしいと思います。

ます。在学中になんらかの思い出（仲間づくりやサークル活動、勉強やスポーツなど）をつくった校友は大学に対する想いが強く、母校愛に繋がっているのではないかと思います。在学中に母校愛を育んで卒業後も大学に関心をもってほしいと願います。では卒業してから母校愛を育むことはできないのか？できないと私は思っていました。が、他学部の校友会長との交流のなかで可能であると気づかれました。たとえば卒業後に大学の施設を開放して勉強したり、スポーツしたり、自分を磨く機会を創出する、再度大学との関係を築くことで母校愛を育むことができると思います。具体的な構想はこれからですが、皆で検討してかたちにしていきたいと思っています。

母校愛にも関係する話ですが、一点悲しいお知らせがあります。もうご存じの方もいらっしゃると思いますが、令和六年五月十五日付、日本大学広報第八一二号に短期大学部（三島）食物栄養学科の募集を令和七年度より、専攻科食物栄養専攻を令和九年度より停止すると掲載されていました。ビジネス教養

学科の募集は継続します。食物栄養学科と専攻科はここ数年、志願者の減少に伴い入学定員を充足できない状況が続いていたそうです。六年度入学生を含め引き続きすべての在学学生が充実した学生生活を送れるよう支援

「ご挨拶」



国際関係学部学部長

渡邊 武一郎

暑さの厳しかった夏もようやく終わりを迎え、日大通りの銀杏並木も黄金色に色づく季節となりました。国際関係学部校友会の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、日本大学国際関係学部、短期大学部の研究・教育活動にご支援、ご助力を賜りまして、誠に有難うございます。

今年度は三島キャンパスも新型コロナウイルス感染症の流行前の状態に戻り、開講式も通常通りの形態で実施することができました。キャンパスが学生たちで賑わう日常を取り戻し、当たり前の毎日の有難さを感じています。

令和六年度は国際関係学部には五九一名、短期大学部ビジネス教養学科に五十六名、食物栄養学科に六十七名、専攻科食物栄養専攻に十九名、大学院国際関係研究科には九名、更には、三島高等学校に五一〇名、三島中学校に四十六名と、三島キャンパス全体で一、二九八名の新入生を迎えることが出来ました。

キャンパスで学ぶ全ての生徒、学生、大学院生を合わせると四、七三五人となります。

国際関係学部では今年度から新たに、英語科教育法の栗原ゆか先生、哲学の大沢啓徳先生、日本語・日本語教育の池田聖子先生をお迎えしました。学際的に幅広く学べる国際関係学部として、これまで以上に学生の学びを支えていきます。

三島キャンパスでは学生の学習環境の充実を目指して、図書館と管理棟の複合施設の建設が始まりました。館内にはブックツリーという大きな開架式の書庫を備え、周りには利用者が静かに勉強できるスペースが設置されています。ガラス張りの外観とともに、三島キャンパスを象徴する施設になると思います。

これまで国際関係学部では様々なかたちで学生の海外交流を推進してきましたが、日々刻々と変化する世界情勢を鑑み、海外の大学等と新たな交流を始めました。その一環として、フィリピン・セブのサンカルロス大学との学部間協定を締結しました。また、フィリピン・パナイ島イロイロ市にあるフィリ

ピン中央大学との協定では、日本語ティーチングインターンシップ学生の派遣も可能となりました。さらにアメリカ・カリフォルニア州のマーセッドカレッジとは、国際関係学部に加えて短期大学部（三島校舎）とのダブルディグリーの修得も可能となりました。

この他にも、発展著しいインドにあるO.P.Jindal Global Universityとは学部間協定の締結に向けて話し合いを進めています。そして、日本大学が初めて海外にキャンパスを開設したオーストラリア・ニューカッスルにあるニューカッスル大学とは、国際関係学部に加えて大学院国際関係研究科とのダブルディグリー修得を目的としたプログラムの構築を進めています。今後も国際関係学部の学生が世界の様々な国々を訪れ、異文化交流の素晴らしさ・難しさを、身をもって体験できるチャンスを増やしたいと思います。引き続き校友会の皆様のご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



「ご挨拶」



国際関係学部事務局長

齊藤 聡

となり、現在の食物栄養学科に名称変更されました。

出生数が年々減りつつある中で、高等教育機関への進学者数も四年制への入学希望者が短大への入学希望者数を上回り、食物栄養関係についても、入学する学生も漸減している状況でありました。このような状況の下、学校法人日本大学は短期大学部食物栄養学科の存続について同学科について令和六年四月入学の受け入れを最後に、学生募集を停止することを決定いたしました。

食物栄養学科が募集停止となったことは事務局の一員として残念であると同時に個人的にも寂しい思いはぬぐえません。

思い出すのは私が三島キャンパスに配属になった四十一年前。当時は毎年夏にオール日大の教職員のソフトボール大会が開催されており、三島キャンパスにおいても国際関係学部の職員が中心となり短大の教職員も含め夏近くなると週末に練習。夏季休暇期間中に強化合宿を行っていました。キャンパス内の学生・生徒用の合宿所に宿泊まりし、朝始業前にグラウンドを何周も回ったり、業務終了後に練習を

したりしていました。大学を卒業して就職していきなりこんなハードなことするのかと参っていた時に、合宿の中で食物栄養学科の副手さんたちが中心となつて、「ホルモンパーティー」を開いてくれました。忘れもしない十一号館の地下のホールでホルモンの煙がもうとうと上がる中、教職員の老若男女がハードな合宿の中で忙中閑あり。ひと時楽しい時間を過ごしました。その時の食采の副手さんたちの手際の良さ、豪快さ、そしてみんなを盛り上げる人柄の良さに社会人になりたての私は至極感動したことを覚えています。(余談ですが翌日の十一号館の地下と一階は半日ホルモン臭が漂い、前夜のことを知らない人たちからは不思議がられていました(笑))

個人的な思い出をつらつらと書きましたが、食物栄養学科の六十有余年に渡る実績と三島市をはじめとして広く地域社会に多大なる貢献をしてきたことは疑いようありません。残念ながらこの先、食物栄養学科の歴史は閉じますが、三島キャンパスに育った我々の心の中には永遠にその輝きを灯し続けていく

ことでしよう。

三島キャンパスに脈々と流れている伝統の下、新しく生まれていくもの、なくなっていくもの、歴史の様々な流れの中に私たちは生きていますが、大事なことはこの三島キャンパスに入学してきた学生たちが納得した学生生活が送れるように、そして各々自分の希望する将来へのサポートができるように努めることが私たち教職員の務めであると考えています。

「五十年ぶりの再会」



国際関係学部校友会副会長
江本 博勝

校友の皆様いかがお過ごしでしょうか。平素は、国際関係学部校友会に対するご支援、ご協力には深く感謝申し上げます。ある日、学生時代の友から久しぶりにサークルの仲間と会わないかとの連絡が有り、私が地元でも有る事から中心となつて段取りをする事になりました。

国際関係学部・短期大学(三島校舎)はこれからも校友の皆様をはじめ社会から信頼を得られるような教育機関を目指し、教職員一丸となつて進んでまいります。校友会の皆様には今後とも一層のご理解とお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。末筆になりましたが、国際関係学部校友会の益々のご発展と校友の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

卒業してから五十年の歳月が流れていました。男子五名、女子五名の計十名で一人も欠ける事が無く再会する事が出来ました。そして当時、我がサークル(コンピュータ研究会)のコンパや集合場所の食事処にしていた「高田屋」に集合する事に成りました。

卒業してから五十年の歳月が流れていました。男子五名、女子五名の計十名で一人も欠ける事が無く再会する事が出来ました。そして当時、我がサークル(コンピュータ研究会)のコンパや集合場所の食事処にしていた「高田屋」に集合する事に成りました。

ました。

大学祭の準備期間中での苦勞話や学生時代の思い出話など話は尽きませんでした。特に大学祭など一つの目標に向かってサークルが一丸となつて突き進んでいく姿は美しいと感じました。

二次会は茶房「樗」で行いました。あつという間に別れの時が来て記念撮影をして帰路に着きました。

今、想うことは青春時代に一時期を過ごした「仲間がいい」「何も変わっていない」ということです。ほとんどの友は久しぶり致します。

振り有り一人は五十年ぶりの再会でしたが学生時代に戻り懐かしく思いました。校友の皆様、銀杏並木は三島学園のシンボルです。学園通りの銀杏並木を歩きながらお互いに青春の一時期を過ごした学園に足を運んでみては如何ですか。最後に、この役職(副会長)を任せられました事の責任を感じると共に皆様のご期待に添えるよう全力を尽くす所存であります。

母校と日本大学国際関係学部「校友会」の益々の発展をお祈り致します。

「時が経つのは早いもので」



国際関係学部校友会常任幹事
諏訪部 昭子

時の経つのは本当に早いもので、あと三年余りで七十歳の大会に、そして卒業から五十年を迎える年齢になってしまった。先日、高校・短大時代から今

でも仲の良い四人組で、久々に銀杏並木が見たい。と出かけて行くも、あれまあ、銀杏木こんなに大きかったかしらと。いえいえ太くなるはず、大きくなる

はず。あれから五十年も経つのですから。と顔を見合わせ大笑い。キャンパス内を外からではあるが、ゆつくり車を走らせて、様子を見る。桜アリーナたるものに目を見張り、その様変わりに只々驚き。希望の森、野外ステージは？朝礼をやった事を思い出す。

私の卒業した文科国文専攻は、今はもうなく、とても寂しく思うが、私達の卒業後に新設された国際関係学部と同窓会のお仲間に入れて頂いている。

文科国文・英文専攻科は、年に一度新入卒業生を迎え、桜文会を開催していたので、私は卒業年別出席者数ナンバーワンを目指し、同級生を集めてきたことを懐かしく思い出す。

ここ数年桜文会の開催がないので、いつも楽しみにしていた級友からは、もうやらないのかと聞かれていた。ですから是非久々の桜文会の開催を目指したいと思っている。

その際は、様変わりした懐かしの三嶋キャンパスに、懐かしい顔ぶれを集め見学ツアーが出来るよう願っている。

北は北海道サロマ、南は奄美大島から進学して来たクラスメ

イトは今どこに在るのだろうか？皆元気にしているのだろうか？

足腰丈夫なうちに、懐かしの三島に集合！

あまりの変わりようにきつと

「銀杏並木きずな清掃に参加して」



国際関係学部校友会常任幹事

勝又義博

二〇一六年五月から校友会の新たな活動として『銀杏並木きずな清掃』を、毎月第四日曜日の朝九時から一時間程度、本校舎西側道路（県道二十一号線）

両側銀杏並木の歩道で実施しています。清掃活動の目的である『校友が交流の場としてきずなを深めることと社会貢献』に賛同し、住まいも隣町と言う事もあり、極力時間を作って参加しています。

参加した当初は、タバコの吸い殻、空き缶、ペットボトルの多さに驚くとともに、がっかりした事を思い出します。最近で



は、新型コロナウイルスの影響でしょうか、マスクのボー捨てが目につくようになりました。自分が出

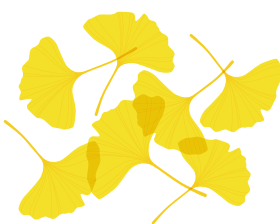
したゴミは各自で責任を持って処理してもらいたいものです。

清掃活動には、先輩や後輩さんには現役の高校生まで幅広い世代の方々が参加してくれています。初対面の方と出会い同じ清掃作業をする事によって交流が生まれ、色々な話をする事が出来るようになります。

高倉健の言葉に『人生っていうのは、人と人との出会い。一生の間にどんな人と出会えるかで人生は決まるんじゃないですか。』というのがあります。人が一生の間に会える人は、ほんの一握りしかいません。何かの縁やきっかけで知り合える訳ですが、その機会を逃す事無く大切に、できるだけ多くの人と出会い知り合いになり、色々な話をする事によって新たなきずなや交流が生まれ、人生がより豊かなものになるのではないのでしょうか。

校友会では総会をはじめ銀杏並木きずな清掃など様々な行事が予定されていますので、今後長時間の許す限り積極的に参加したいと思っています。皆さんも都合がついたらぜひ校友会の行事に参加してみてください。特にきずな清掃は、身体一つで

参加出来るので新たな出会いの場として参加してみたいかがでしょうか。



「人生の傍らに音楽を」



国際関係学部・短大三島校友会
山形県支部 幹事長

鈴木健一

日頃は山形県支部の活動に対しご理解、ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

卒業後三十数年が過ぎ年月の速さを感じています。在学時代の思い出としては、友人と四十日間かけてアメリカ横断を経験したことです。旅行を計画しアルバイトで資金を貯めて出発し、レンタカーを乗り回し、危険にも遭遇しながら帰国したことは今となれば、その行動力に感心します。その中でも、現地の人々との繋がりは貴重な経験となりました。

卒業後は地元の山形に戻り、山形パナソニックで家電営業一筋で勤め、二〇一九年からグループ会社である株式会社昌和商事の社長に就任いたしました。昌和商事では、家電製品の卸業を山形県、宮城県、秋田県、青森県で事業展開しております。家電製品を通じて個人で使うエ

ネルギー削減に貢献しようと取り組んでいます。使い方を工夫するより買い替えることで知らない間に節電に貢献できると考え、冷蔵庫、照明器具、エアコン、テレビを中心に省エネ家電の買い替えをご提案しております。また、小売部門であるミュージック昭和では、音楽という喜びを『手にする』『聴く』『学ぶ』『表現する』場を全ての世代の方に提供しています。これらを一カ所で実現できる環境というのは全国でも珍しいと思います。ヤマハ音楽教室で学び、お気に入りの楽器を購入し、スタジオをレンタルして自主練習をする事も可能です。そして練習の成果をホールで発表することができます。また、話題のCD・レコードの購入や、それらを聴くためのオーディオ製品も入門編からハイエンドの商品まで手に行うことができます。

音楽が常に傍らにある生活と快適な社会の実現のためにSDGSのゴールの1つでもある「質の高い教育をみんなに」に取り組んでいます。音・音楽ビジネスを通じて教育、生涯学習への貢献度を高めていきたいと思っています。昌和商事・ミュージック昭和は、商品・サービスの提供にとどまらず、音楽文化の発展にも貢献します。そして人々のつながりを強め幸福度を高める事を継続していきます。そのためには、かつてバンドブームが巻き起こった時の世の子供たちが、ミュージック昭和を訪れ好きなアーティストのライブ等を観て、楽器を弾いてみたいという初期衝動にかられ、楽器を抱えた若者が山形にあれば、楽器を弾いてほしいと考えられています。

結びに、国際関係学部校友会のますますのご発展と校友の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



各団体代表者

「文化会」



国際教養学科三年

平山明果

私が日本大学国際関係学部に入學し、NICCSに所属してから三年目を迎えました。入部した頃は同年度の部員が在籍せず、活動に対して楽しみという気持ちより不安の方が大きかったです。しかし、あたたかい先輩方のおかげで不安は無くなり、毎週楽しく活動することができました。現在は同年度の部員が増えましたが、私がここまで活動が続けてこれたのは先輩方のおかげと言っても過言ではありません。

例年NICCSでは海外研修を行っていますでしたが、コロナの影響により近年は実施されていませんでした。しかし、昨年度にコロナ明け初となる海外研修を実施しました。海外研修を経験したことのある先輩方が誰一人

いない中、海外研修を実施するのはとても大変でした。書類作成や物資の仕分けなど部員で手分けをして協力しながら万全な準備を整えました。先輩方が私たち後輩を引っ張っていったおかげで充実した海外研修を実施することができました。注力してくださった先輩方には感謝の気持ちしかありません。

海外研修ではカンボジアに行き、現地の小学校や孤児院の子供たちと交流しました。日本で集めた物資やお菓子の配布だけではなく、一緒に遊んだり、植樹したりしました。現地に行くことで得られた気づきも多く、とても良い経験となりました。また、言葉が通じなくても私たち大学生と交流しようとしてくれていた子供たちの姿勢が嬉しかったです。気温三十五度、校庭には日陰もない小学校で暑さに気遣ってくれた子や頑張って英語で手紙を書いてくれた子など優しさに溢れていました。

海外研修の経験をもとに私たちに何ができるのかを考え、今後の活動に活かしていきたいと思っています。

大学生活において部活動での経験はかけがえのないものだ

感じています。活動内容はもちろんのこと、学年や学科、コースの異なる学生が一つの場所に集まり、言葉を交わします。これは大学生ならではの貴重な経験です。そのため、NICSとしての活動が多く、部員にとってより有意義なものとなるよう部長として作っていったらいいなと思っております。今後ともNICS、文化会をよろしくお願いいたします。

「体育会」



国際総合政策学科三年

芦原和哉

私が日本大学国際関係学部に入學し、男子バスケットボール部に所属してから三年目を迎えました。私が入学したばかりの頃は、新型コロナウイルスの影響もあり、思うように部活動を行うことができませんでした。また部員数も少なく、満足のいく練習ができませんでした。しかし、勧誘活動を積極的に行ったことや、SNSなどで広報を

続けていくことで、多くの仲間が増え、現在ではマネージャーも含め、約四十名の部員と有意義な練習ができるようになりました。今では、地域の大会や県大会にもたくさん参加することができています。その為、優勝を目標にチーム一丸となって日々の練習を頑張っています。そして今年行われたオール日大では、悲願の二十三年ぶりとなる優勝を果たすことができました。

この時の喜びや感動は、私にとって忘れることのない最高の思い出となりました。これまでの大変だったことや、頑張ってきたことの全てが報われた瞬間だったと思います。これは、選手の力だけでなく、いつも温かく時に厳しく指導してくださっている監督や、毎日支えてくれている家族、優しく見守ってくださる先輩方のおかげです。心から感謝しています。

入学当初はオンライン授業ということもあり、友達がなかなかできず、悩みごとや相談できる友人が学内にいないということとは、とても不安なことでした。しかし、私はこの男子バスケットボール部を通してたくさんの仲間に出会うことができ、部活中はもちろん、日々の学校生活や、プライベートでも毎日楽し

く充実した大学生活を送ることができています。

新型コロナウイルスにより、最初の一年間は自分の思っていた日々とは違い、満足のいくキャンパスライフを送ることができていませんでしたが、部活動を通して新しい頼もしい仲間に出会えたことに感謝しています。これからも部活動を通して、多くのことを経験し、成長していきたいと思っています。どの部活動におかれましても、一人一人が楽しく充実できていると思える活動ができることを願っています。今後とも、男子バスケットボール部、体育会をよろしく申し上げます。

「富桜祭」



国際総合政策学科三年

栗原智也

私が日本大学国際関係学部に入學した際、最も興味を持った部活動が富桜祭実行委員会でした。高校時代、新型コロナウイルス

ルスの影響で文化祭は一度しか開催されず、やりたいことができなかつた高校生活に対する悔しさが残っていました。そのため、大学という最後の学生生活で何か大きなことを成し遂げたという強い思いから、富桜祭実行委員会に入部しました。

現在、委員長として百人規模の部員をまとめていますが、前委員長や幹部の方々から委員長に推薦された日のことは、今でも鮮明に覚えています。これまでも主将や団長を務めた経験はあったものの、これほど大きな責任を負って組織をまとめたことはなく、不安でいっぱいでした。特に、四年生が引退し、残った部員は二十人にも満たない状況だったため、その不安はさらに募りました。委員長としてどのように立ち振る舞うべきか、組織をどうまとめるべきか悩み、憂鬱な日々を過ごすこともありましたが、進捗が思うように進まなかつたり、意見が対立する場面では、自分のリーダーシップに疑問を感じ、孤独を感じることもありました。

しかし、そんな苦しい時期を乗り越えるために支えとなってくれたのは、部員や先輩方、そして教員の方々でした。部員たちが自主的に行動してくれた

り、先輩方の助言、教員の方々の親身なサポートがあったおかげで、少しずつ自信を持ち、組織をまとめることができるようになりました。特に、部員一人ひとりの思いを尊重し、全員が積極的に関われる環境を整えることが大切だと学びました。共に苦勞を分かち合うことで、リーダーとして成長し、組織全体が強くなったことを実感しています。

今年の文化祭のテーマは、「CONNECTIONS」新たなつながりの探求です。コロナ禍で制約を受けた学生生活の中で、これまでのつながりを見直し、新たなつながりを築くことが、私たちにとって成長の鍵だと感じています。文化祭を通じて、学生同士だけでなく、地元の皆様や外部の協力者とも積極的に連携し、さまざまな形で新しい「つながり」を模索していきたいと考えています。今年の富桜祭は、これまでにない新たな交流の場を築き、全員で一つの目標に向かって前進していきましょう。全力を尽くしてまいります。今後とも、富桜祭実行委員会をどうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度 事業報告

1 国際関係学部校友会会長賞等授与

令和6年度日本大学国際関係学部在学生から、次の者が国際関係学部長から推薦された。

- ・校友会会長賞（副賞：奨励金）は、国際関係学部1名に贈られ、令和6年3月25日予定の学位記伝達式が学部卒業式に変更となり、同年3月26日三島駅北口校舎にて授与式が挙行され、該当者に対し賞状並びに副賞として奨励金が授与された。
- ・校友会優秀賞（副賞：奨励金）は、国際関係学部2名に贈られ、令和5年3月25日予定の学位記伝達式が学部卒業式に変更となり、同年3月26日三島駅北口校舎にて授与式が挙行され、該当者に対し賞状並びに副賞として奨励金が授与された。

①校友会会長賞（副賞：奨励金）

（国際総合政策学科4年）茂野 友哉

②校友会優秀賞（副賞：奨励金）

（国際総合政策学科4年）杉浦 悠太 （国際総合政策学科4年）杉田 健

1 メタルクラフト

800個を製作し令和5年4月大学院及び国際関係学部並びに短期大学部（三島）各学科の新入生全員に対して入学祝として渡した。

1 会報発行

会報54号を令和5年11月30日付け22頁 20,000部を発行した。

1 各事業に対する補助

①国際同窓会・桜栄会及び山形県支部に対する補助

②大学の体育会・文化会に対する補助

1 常任幹事会

令和5年6月10日(土)16時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館2階1523教室において開催した。

1 幹事会

令和5年6月10日（土）17時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館2階1523教室において開催した。

1 総会並びに懇親会

令和5年7月3日（土）15時30分から、みしまプラザホテルにおいて開催した。

1 国際校友会公式WEBサイト更新

令和5年4月から公式WEBサイト（ホームページ）に年間10回に渡り校友会行事を写真集として更新した。

1 富桜祭物産展参加

令和5年10月28日（土）・29日（日）両日に開催された第73回富桜祭の10月29日に校舎15号館1階スタディエリアの一部を使用して校友会主催による地元特産物等の販売並びにバザーを開催した。

1 ホームカミングデー開催

令和5年8月15日(火)16時から20時まで佐藤塾（本町交差点）にて日大三島高校同窓会三島支部との共催による『三嶋大祭りバージョン』と称して開催した。

令和5年10月29日(日) 11時から15時まで校舎15号館2階エレベーターホールに於いて国際関係学部・短期大学部（三島）卒業生及び法・文理・経済・商学部移行生を対象とした学園訪問懇談会を「富桜祭バージョン」と称し開催した。

1 銀杏並木歩道清掃作業

本校舎西側（県道21号線）歩道両側の清掃作業を実施した。ボランティア活動の一環として毎月第4日曜日の午前9時から約1時間、銀杏並木南側歩道橋附近から北側幸原町交差点までの両側歩道植え込み清掃を実施した。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため本年度は4月23日を第1回目として10回実施し、参加者は校友会会員に加え日大三島高校生徒会延130名が参加した。

令和5年度 収支決算書 (平成5年4月1日～令和6年3月31日) (単位:円)

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	項 目	予 算 額	決 算 額	差 額
奨 学 費	390,000	90,000	300,000	会 費 収 入	15,756,000	12,076,000	3,680,000
校 友 会 報 発 行 費	1,000,000	1,062,600	△ 62,600	雑 収 入	780,000	689,093	90,907
各 科 同 窓 会 等 補 助	300,000	200,000	100,000				
学 生 団 体 補 助	800,000	214,600	585,400				
総 会 並 び に 懇 親 会 費	1,000,000	907,446	92,554				
箱 根 駅 伝 応 援 補 助	920,000	185,584	734,416				
本 部 校 友 会 会 費	470,000	340,000	130,000				
入 学 記 念 品 費	500,000	471,680	28,320				
卒 業 記 念 品 費	2,300,000	3,720,000	△ 1,420,000				
会 議 会 合 費	300,000	239,005	60,995				
通 信 運 搬 費	2,300,000	2,225,643	74,357				
ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	400,000	404,800	△ 4,800				
事 務 費	1,200,000	1,374,670	△ 174,670				
会 員 名 簿 作 成 費	100,000	40,436	59,564				
就 職 合 同 面 接 会 運 営 費	0	0	0				
日 本 大 学 130 周 年 記 念 寄 付 金	0	0	0				
雑 費	900,000	486,668	413,332				
国 際 関 係 学 部 校 友 会 奨 学 金 支 援 基 金	250,000	250,000	0				
予 備 費	300,000	0	300,000				
計	13,430,000	12,213,132	1,216,868	計	16,536,000	12,765,093	3,770,907
基 金 繰 入 額	400,000	400,000	0	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金	47,366,154	44,812,115	2,554,039	前 年 度 繰 越 金	44,660,154	44,660,154	0
(繰越金)	47,366,154	44,812,115					
支 出 の 部 合 計	61,196,154	57,425,247	3,770,907	収 入 の 部 合 計	61,196,154	57,425,247	3,770,907

貸 借 対 照 表 (令和5年3月31日現在) (単位:円)

借 方		貸 方	
項 目	金 額	項 目	金 額
普 通 預 金	59,812,115	基 金	19,760,000
定 期 預 金	4,760,000	前 年 度 繰 越 金	19,360,000
		本 年 度 繰 入 額	400,000
		本 年 度 繰 出 額	0
		次 年 度 繰 越 金	44,812,115
		繰 越 金	44,812,115
合 計	64,572,115	合 計	64,572,115

基 金 の 内 訳 (単位:円)

項 目	前年度繰越額	本年度繰入額	本年度繰出額	合 計
基 金	19,360,000	400,000	0	19,760,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	7,080,000	100,000	0	7,180,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	7,080,000	100,000	0	7,180,000
国際関係学部校友会35周年記念事業基金準備金	5,200,000	200,000	0	5,400,000
計	19,360,000	400,000	0	19,760,000

令和5年度収支について関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

令和6年5月15日

会計監査 木 村 貴美和 ㊞
会計監査 藤 本 文 彦 ㊞

令和6年度 事業計画

1 国際関係学部校友会会長賞等授与（副賞：奨励金もしくは奨学金）

日本大学国際関係学部及び短期大学部（三島校舎）令和7年3月卒業・4月進級の予定者を対象とする。

・校友会会長賞並びに奨励金	国際関係学部	4年卒業予定者	3名
・校友会優秀賞並びに奨励金	国際関係学部	4年卒業予定者	4名
	短期大学部（専攻科含む）	2年卒業予定者	2名
・校友会優秀賞並びに奨学金	国際関係学部	2・3年在学生	4名
	短期大学部（専攻科含む）	1年在学生	2名

1 メタルクラフト

800個を製作し令和6年4月大学院及び国際関係学部並びに短期大学部（三島校舎）各学科及び専攻科の新入生全員に
対して入学祝として渡す。

1 会報発行

会報55号（令和6年10月21日付）24頁 22,500部発行予定。

1 各事業に対する補助

- ①各科同窓会及び支部に対する補助
- ②大学体育会・文化会に対する補助
- ③箱根駅伝応援に対する補助

1 常任幹事会

令和6年6月8日（土）16時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館において開催する。

1 幹事会

令和6年6月8日（土）17時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館において開催する。

1 総会並びに懇親会

令和6年7月6日（土）15時30分から、みしまプラザホテルにおいて開催する。

1 国際校友会公式WEBサイト更新

年間行事を写真集として更新する。

1 富桜祭物産展参加

令和6年10月26日（土）・27日（日）に開催される第74回富桜祭期間の27日（日）校舎15号館1階スタディエリアの一部を使用し10時から16時まで校友会主催による地元特産物等の販売並びにバザーに参加する。

1 ホームカミングデー開催

令和6年8月16日（金）16時から20時まで佐藤塾（本町交差点）にて日大三島高校同窓会三島支部との共催による「三嶋大祭りバージョン」を国際関係学部・短期大学部（三島）卒業生及び日大三島高校卒業生並びに法・文理・経済・商学部移行生を対象として開催する。

1 箱根駅伝応援

令和7年1月3日（金）復路スタート応援地点で応援する。また、令和7年1月2日（木）往路ゴール応援地点及び令和7年1月3日（金）復路スタート応援地点で国際関係学部チアリーディング部・文化会所属吹奏楽部の学生が応援に参加する。

1 銀杏並木歩道清掃作業

ボランティア活動の一環として、本校舎西側（県道21号線）歩道両側の清掃作業を実施する。

実施日は毎月第4日曜日午前9時から約1時間とする。

令和6年度 収 支 予 算 書

（令和6年4月1日～令和7年3月31日） （単位:円）

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額	項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額
奨 学 費	390,000	390,000	0	会 費 収 入	11,712,000	15,756,000	△4,044,000
校友会報発行費	1,100,000	1,000,000	100,000	雑 収 入	780,000	780,000	0
各科支部等補助	300,000	300,000	0				
学生団体補助	800,000	800,000	0				
総会並びに懇親費	1,000,000	1,000,000	0				
箱根駅伝応援等補助	920,000	920,000	0				
本部校友会会費	400,000	470,000	△ 70,000				
入学記念品費	500,000	500,000	0				
卒業記念品費	2,300,000	2,300,000	0				
会議会合費	300,000	300,000	0				
通信運搬費	2,300,000	2,300,000	0				
ホームページ運営費	400,000	400,000	0				
事務費	1,400,000	1,200,000	200,000				
会員名簿作成管理費	100,000	100,000	0				
就職合同面接会運営費	0	0	0				
雑 費	900,000	900,000	0				
国際関係学部校友会奨学金支援基金	250,000	250,000	0				
予 備 費	300,000	300,000	0				
計	13,660,000	13,430,000	230,000	計	12,492,000	16,536,000	△4,044,000
基金繰入額	400,000	400,000	0	基金繰出額	0	0	0
次年度繰越金	43,244,115	47,366,154	△4,122,039	前年度繰越金	44,812,115	44,660,154	151,961
（繰越金）	43,244,115	47,366,154					
支出の部合計	57,304,115	61,196,154	△3,892,039	収入の部合計	57,304,115	61,196,154	△3,892,039

※各予算を流用することができるものとする。

基 金 の 内 訳

（単位:円）

項 目	前年度繰越額	本年度繰入額	本年度繰出額	基金振替額	合 計
基 金	19,760,000	400,000	0	0	20,160,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	7,180,000	100,000	0	0	7,280,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	7,180,000	100,000	0	0	7,280,000
国際関係学部校友会発足35周年事業基金準備金	5,400,000	200,000	0	0	5,600,000
計	19,760,000	400,000	0	0	20,160,000

国際関係学部校友会

年間会議報告

◎常任幹事会

令和六年六月十日(土)一六時三〇分から、国際関係学部本校舎一五号館一階一五二三教室において開催された。

横山雅人会長挨拶の後、会長進行により議事に移り、幹事会提案事項の内容について各担当者から詳細な内容説明があり検討審議された。

◎幹事会

令和六年六月八日(土)一七時三十分から、常任幹事会に引き続いて幹事会が開催された。弓場重明副会長の司会で進行され、黙禱に引き続き横山雅人会長挨拶の後、議長団・書記の選出に移った。

- 一 国際関係学部校友会関係物故者について
- 一 校友会会報(第五十五号)原稿依頼について
- 一 その他 令和五年度銀杏並木清掃参加者について
- 一 田中由雄幹事長から、令和五年度事業報告引き続き塩谷典子会計担当から令和五年度決算報告が報告され藤本文彦会計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。続いて令和六年度事業計画(案)については田中由雄幹事長から令和六年度収支予算(案)については塩谷典子会計担当から提案説明がなされ、審議の結果二案とも承認された。令和六年度新幹事等に関する件については、国際関係学部三名、短期大学部ビジネス教養学科二名、食物栄養学科三名の推薦をした旨が事務局から提案され承認された。富桜祭物産展実行委員並びにホームカミングデー実行委員に関する件については昨年度に引き続きお願いしたい旨の報告がなされた。

◎総会

令和六年七月六日(土)十五時三十分からみしまプラザホテルにおいて開催された。濱田義之副会長の司会で昨年の総会後から本年六月末日までに逝去された会員に対し黙禱をささげ、続いて平澤佳代子副会長の開会が伝えられ進行された。横山雅人会長の挨拶の後、永年校友会に対し功労があつた柴田 正氏及び相田信次氏両顧問に対し感謝状並びに記念品が家族に授与された。続いて議事に移り、議長団・書記選出となった。議長には田代稔常任幹事、副議長には日吉 智常任幹事、書記には斎藤千鶴子常任幹事が選出れ、次の議事が報告及び審議された。

- 一 令和五年度事業報告
- 一 令和五年度決算報告
- 一 監査報告
- 一 令和六年度事業計画(案)
- 一 令和六年度収支予算(案)
- 一 令和六年度新幹事に関する件
- 一 富桜祭物産展実行委員・ホームカミングデー実行委員に関する件
- 一 国際関係学部校友会関係物故者について
- 一 和年度銀杏並木清掃参加者名簿について
- 一 各科同窓会活動報告
- 一 その他

田中由雄幹事長から令和五年度事業報告がなされ、続いて令和五年度決算報告が塩谷典子会計担当から報告、藤本文彦会計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。令和六年度事業計画(案)に関する件は田中由雄幹事長から、令和六年度収支予算(案)に関する件は塩谷典子会計担当から内容説明がなされた。審議の結果、原案どおり承認され、二案について案の削除となった。続いて令和六年度新幹事等に関する件とし校友会事務局から高田康子、国際関係学部同窓会から茂野友哉 以下三名、短期大学部商経科同窓会から角田永遠以下二名、桜栄会から伊丹琴音以下三名を幹事として推薦したい旨が事務局から提案があり承認された。富桜祭物産展・ホームカミングデー実行委員に関する件については、昨年度に引き続き委員をお願いしたい。国際関係学部校友会関係物故者については田中由雄幹事長から令和五年七月から令和六年六月末日までに事務局宛に連絡が届いた柴田正以下二十二名の会員の方がご逝去なされた旨の報告がされた。各科同窓会活動報告については報告事項なし。平澤佳代子副会長の閉会のことばで総会は終了した。

総会終了後懇親会が開催された。田中由雄幹事長の司会で進行され、鈴木允常任幹事の指揮により校歌斉唱に始まり横山雅人国際関係学部校友会会長挨拶の後、来賓挨拶として兼板義孝日本大学副学長並びに渡邊武一郎国際関係学部部長及び武居弘市日本大学校友会副会長挨拶と会長代読の祝辞があつた。来賓紹介の後、齊藤聡国際関係学部事務局長による乾杯のご発声で懇談に移った。本年の余興として国際関係学部体育会所属フラダンス部の演技が披露され、一時の南国気分を味わったと思います。弓場重明副会長により中締めのことばで閉会となった。

- 一 監査報告
- 一 令和六年度事業計画(案)
- 一 令和六年度収支予算(案)
- 一 令和六年度新幹事に関する件
- 一 富桜祭物産展実行委員・ホームカミングデー実行委員に関する件
- 一 令和六年度国際関係学部校友会総会・懇親会に関する件
- 一 功労者表彰に関する件
- 一 校友会正会員加入のお願い

令和六年七月六日(土)十五時三十分から会場は、みしまプラザホテルにおいて開催される旨田中由雄幹事長から報告がなされた。功労者表彰に関する件について田中由雄幹事長から柴田正、相田信次両顧問に授与したい旨の提案があり了承され、総会時に授与式を開催したい。次に校友会正

令和六年七月六日(土)十五時三十分からみしまプラザホテルにおいて開催された。濱田義之副会長の司会で昨年の総会後から本年六月末日までに逝去された会員に対し黙禱をささげ、続いて平澤佳代子副会長の開会が伝えられ進行された。横山雅人会長の挨拶の後、永年校友会に対し功労があつた柴田 正氏及び相田信次氏両顧問に対し感謝状並びに記念品が家族に授与された。続いて議事に移り、議長団・書記選出となった。議長には田代稔常任幹事、副議長には日吉 智常任幹事、書記には斎藤千鶴子常任幹事が選出れ、次の議事が報告及び審議された。

- 一 令和五年度事業報告
- 一 令和五年度決算報告
- 一 監査報告
- 一 令和六年度事業計画(案)
- 一 令和六年度収支予算(案)
- 一 令和六年度新幹事に関する件
- 一 富桜祭物産展実行委員・ホームカミングデー実行委員に関する件
- 一 国際関係学部校友会関係物故者について
- 一 和年度銀杏並木清掃参加者名簿について
- 一 各科同窓会活動報告
- 一 その他

田中由雄幹事長から令和五年度事業報告がなされ、続いて令和五年度決算報告が塩谷典子会計担当から報告、藤本文彦会計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。令和六年度事業計画(案)に関する件は田中由雄幹事長から、令和六年度収支予算(案)に関する件は塩谷典子会計担当から内容説明がなされた。審議の結果、原案どおり承認され、二案について案の削除となった。続いて令和六年度新幹事等に関する件とし校友会事務局から高田康子、国際関係学部同窓会から茂野友哉 以下三名、短期大学部商経科同窓会から角田永遠以下二名、桜栄会から伊丹琴音以下三名を幹事として推薦したい旨が事務局から提案があり承認された。富桜祭物産展・ホームカミングデー実行委員に関する件については、昨年度に引き続き委員をお願いしたい。国際関係学部校友会関係物故者については田中由雄幹事長から令和五年七月から令和六年六月末日までに事務局宛に連絡が届いた柴田正以下二十二名の会員の方がご逝去なされた旨の報告がされた。各科同窓会活動報告については報告事項なし。平澤佳代子副会長の閉会のことばで総会は終了した。

総会終了後懇親会が開催された。田中由雄幹事長の司会で進行され、鈴木允常任幹事の指揮により校歌斉唱に始まり横山雅人国際関係学部校友会会長挨拶の後、来賓挨拶として兼板義孝日本大学副学長並びに渡邊武一郎国際関係学部部長及び武居弘市日本大学校友会副会長挨拶と会長代読の祝辞があつた。来賓紹介の後、齊藤聡国際関係学部事務局長による乾杯のご発声で懇談に移った。本年の余興として国際関係学部体育会所属フラダンス部の演技が披露され、一時の南国気分を味わったと思います。弓場重明副会長により中締めのことばで閉会となった。



国際関係学部校友会総会

十一月以降の行事内容については国際関係学部校友会ホームページにご案内を致しますのでご覧ください。

◎校友会会報投稿者募集

国際関係学部校友会では卒業生で「会報」に掲載していただく方を募集しております。お店・会社経営者・地元で話題、ユニークな活動を行っている方など自薦・他薦は問いません。ご存じでしたら左記事務局までご連絡ください。

☎四一―八五五
静岡県三島市文教町

二―三―一四五

日本大学国際関係学部内
日本大学国際関係学部校友会

事務局宛

TEL・FAX

〇五五―九八〇―〇八二〇

同窓会だより

国際関係学部同窓会

国際関係学部同窓会は、例年十月に開催されております総会・懇親会ですが本日現在開催予定連絡はございませんのでお知らせいたします。

短期大学部桜栄会、短期大学部桜文会、短期大学部商経科同窓会、短期大学部工科同窓会は、本日現在開催予定連絡はございませんのでお知らせいたします

◎山形県支部総会

日時 令和六年十一月九日(土)
十七時三十分
会場 山形グランドホテル

校友会事務局からのお知らせ

◎銀杏並木清掃作業

毎月第四日曜日午前九時から約一時間程度

本校舎西側道路(県道二十一号線)歩道及び植え込み両側集合場所 大学門入って右手

◎富桜祭 物産展・バザー

日時 十月二十六日(土)・二十七日(日)

場所 十時から十六時まで
校舎十五号館一階
スタディエリアの一部
販売品目
野菜、果物、海産物
ジャム、ジュース

◎ホームカミングデー

日時 十月二十七日(日)
十時から十三時
場所 校舎十五号館一階
スタディエリアの一部

校友の皆様方のご参加をお待ちしております。

◎役員名簿

会長	横山雅人 (国際)			
副会長	宮下公雄 (国際)	濱田義之 (学部)	山田浩子 (桜文)	江本博勝 (商経)
	平澤佳代子 (桜栄)	弓場重明 (工)		
幹事長	田中由雄 (商経)			
常任幹事	関野浩二 (国際) (庶務担当)	塩谷典子 (国際) (会計担当)	染谷徳昭 (商経)	平岩美知 (桜文)
	久保田博明 (商経)	遠藤晶子 (桜栄)	早川清文 (工)	西野和衛子 (商経)
	神戸絹代 (桜栄)	多田清吾代 (商経)	鈴木允 (学部)	田代稔 (商経)
	諏訪部昭子 (桜文)	斎藤千鶴子 (桜文)	露木ひろみ (工)	押見恵美子 (桜栄)
	松原裕二 (国際)	勝亦幾代 (桜文)	西田昭子 (桜栄)	高野誠 (国際)
	勝又義博 (国際)	久保田裕子 (桜栄)	藤澤博隆 (商経)	山瀬匠 (商経)
	渡邊孝哉 (桜文)	勝又勇旭 (国際)	深澤ほの香 (国際)	日吉智 (商経)
	藤本文彦 (工) (会計監査)	木村貴美和 (国際) (会計監査)		
顧問	小早川隆義 (商経)	野中美香 (桜栄)		

公式WEBサイト



URL <http://www.nu-ir-koyukai.jp/>



校友会HP
QRコード

「桜栄会会員の皆様へ」



桜栄会会長

平澤 佳代子

昨年「地球沸騰化」と国連事務総長が世界に向けて警鐘を鳴らしました。今年も、「列島沸騰」「猛暑」「酷暑」など非常に暑い日々が続く、今は残暑厳しい季節、桜栄会会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。さて、密に集まる機会も増えてきた中、中断していた総会等を考える時期になりました。事務局メンバーも看護や介護でなかなか顔を合わせることができない中、今年度内には各期の代表である幹事会の設定を考えております。その折には出席をお願い致します。

このごろ世の中が大変変わってきたと感じておりますが「自分はどう生きるか」というのは変わらないことのひとつではない

でしょうか。私がこの職を引き継いだ挨拶に記しました仏教の言葉についてお話ししたいと思えます。「和顔愛語」（わげんあいご）「先意承問」（せんいじょうもん）この言葉は常日頃、心に留めているものであり、同僚にもお祝いの時などに贈っている言葉です。忙しい日々こそ「あるといいな」ふわふわ言葉を紡ぎ出すための心持ちにしてほしいと願う言葉です。辛

いときや嫌なことがあったとき、愚痴をこぼしたくなるとき、そんな時こそ、まず自分から笑顔と優しい思いやりのある言葉で周りの人に接する姿勢が、『わげんあいご』です。和顔愛語を実践するのは簡単なことではありません。気分がすぐれない時には、なかなか笑顔になれないものです。そこで大切なのが、『先意承問』『相手のことを先に考えて、動いたり満たしてあげたり与えたりすること』です。心に痛い言葉をなげられると、

つつい売り言葉に買い言葉となってしまうがちです。が、どうしてこの人はこんなこというのだろうか、と考える前に、相手の心に思いを馳せて、心を満たしてあげる。こちらに余裕がないとできないことですが、普段から笑顔を保ち、心からの言葉を発する努力をしたいですね。

朝晩ひんやりしてきましたが、日中の暑さが堪えますね。そんな中、数種類の感染症が悪さをしている、マスクや手洗いがまだに欠かせない状況です。そんな時、心も冷えてしまわないように、心がまるくなるふわふわ言葉で、心を温かくし病気に負けないようにお過ごしください。もう既に始めている、生活の一部になっている方は、持続し続け豊かな時をお過ごしください。皆様のご健康を心から祈念し、ご挨拶と致します。

「生成AIの台頭」



日本大学短期大学部
食物栄養学科教授 学科長

高橋 敦彦

校友会、桜栄会会員の皆様に
おかれましては、益々ご健勝の

こととお慶び申し上げます。

すでにお聞き及びの会員の方もおられるかと思いますが、この紙面をお借りして皆様に短期大学部食物栄養学科の学生募集の停止（令和七年度以降）並びに専攻科食物栄養専攻の学生募集の停止（令和九年度以降）についてお知らせ申し上げます。

去る令和六年四月十九日、日本大学の公式ホームページ上、理事長 林真理子先生、日本大学学長・日本大学短期大学部学長 大貫進一郎先生の連名で募集停止に至りました事情について示されました。

<https://www.nihon-u.ac.jp/information/2024/04/14578/>
ここに、この全文を引用転記させていただきます。

「平素より日本大学短期大学部（三島校舎）への御理解・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

学校法人日本大学は、短期大学部 食物栄養学科（以下、食物栄養学科）の令和七年度（二〇二五年度）以降の学生募集を停止することを決定いたしました。なお、ビジネス教育学科の学生募集は継続いたします。

全国的に十八歳人口の減少が

急速に進むなか、特に静岡県下の少子化は全国平均より深刻な状況もあり、また、近年の四年制大学志向などにより、食物栄養学科は過去数年間にわたり入学定員の充足には至りませんでした。このような状況の下、学校法人日本大学は、短期大学部食物栄養学科の存続について慎重に検討を重ねた結果、同学科について令和六年四月入学生の受け入れを以って学生募集を停止することといたしました。さらに、食物栄養学科の学生が卒業後に進学する専攻科食物栄養専攻についても、令和八年四月入学生の受け入れを最後に、学生募集を停止することを併せて決定いたしました。

なお、令和六年度の入学生を含め、引き続きすべての在学学生が充実した学生生活を送れるよう、学生の教育、進路支援などにつきましましては、これまで同様に万全を尽くしてまいります。

卒業生、在学生、保護者の皆様をはじめ、高等学校の先生方や地域の方々におかれましては、これまで本学短期大学部（三島校舎）の教育活動に御理解・御支援いただくとともに格段のご高配を賜りましたこと、衷心より

り感謝申し上げます。この度の食物栄養学科令和七年度以降及び専攻科食物栄養専攻令和九年度以降の学生の募集停止にいたしました事情を御賢察いただき、何卒御理解承りますようお願い申し上げます。」

さて、全国の短期大学に目を向けてみますと、短期大学数は一九九〇年代の約六〇〇校をピークに漸減し三五〇校を割り込むようになっていきます。

東海地域の短期大学の現況は、令和五年度の短期大学数が十五校（令和元年は十七校）、志願倍率は〇・八二倍、充足率は七十一・十二％（令和三年は、志願倍率は一・十七倍、充足率は九十二・十六％）と急激に減少しています。（令和五（二〇二三）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向：日本私立学校振興・共済事業団）

公的機関による今後の動向予測からは十八歳人口が全国的に減少するなか、特に静岡県下の少子化は全国平均より深刻な状況にあり、静岡県内の総人口は、二〇二〇年の三六三万三二〇二人が四十五年に二九七万三四五一人になる見通し（「地域別将来推計人口」国立社会保障・人口問題研究所が二〇二三年十二

月公表）が示されています。また、日本大学短期大学部三島校舎の近隣にある静岡市・富士市・沼津市などの都市でも、今後の人口増が見込まれる市区町はなく、全国平均と比べ人口減少が大きくなっています。こうした背景を鑑みしても、私は学生募集の停止という事態に至りましたことを重く真摯に受け止めております。

卒業生の皆様に対する証明書発行などの各種事務手続きは日本大学国際関係学部事務局に引き継がれることになっており、皆様に「ご不自由をおかけしないよう鋭意対応させていただきます。今後とも皆様方の忌憚のないご意見をお聴かせください。皆様のご健康を祈念申し上げます。」



「食に支えられて」



日本大学短期大学部
食物栄養学科 准教授

葛城裕美

会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

母校を卒業して以来、毎年、会報をととても楽しみにしております。

私は、これまでに臨床栄養学・実習、給食経営管理論・実習、校外実習、公衆栄養学、調理学、食事計画演習、ライフステージ栄養学、卒業研究等を担当し、もうすぐ二十年目の勤務になります。調理師の免許や学生と一緒に取得した製菓衛生師の免許は、安全に美味しく調理する実習で役に立っています。今年度から、新たに国際関係学部で「世界の食文化」を担当することになりました。海外へ行くことに恵まれ、これまで一五〇回渡航した時々のことを交えながら、講義をしています。コ

ロナ禍では、校外実習の担当の時に精神的に追い込まれてしまい、適応障害と診断され、認知行動療法を受ける立場になりました。家族の支えと職場の理解のおかげで、仕事を続けられることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。もう一つ、私の支えになっているのは、日本大学で「栄養士」の資格を取得したことです。栄養士・管理

栄養士の資格があったからこそ、委託給食会社・大学病院での勤務、パラオやタイでの国際栄養教育活動や国際学会での発表など様々な分野で活動することができています。また、三島市保健衛生事業食育連携事業のレシピ開発に携わって十一年目となり、ゼミ生と一緒に市民の食生活の改善に取り組んでいます。

今年度は、全国歯科衛生士教育協議会からの依頼で、専任教員を対象に、ライフステージ別栄養学について講演させてもらいました。口の中の環境を整えることができないと満足に食べられないことを、亡き父の歯磨きの想い出を交えながら話をさせていただきました。

ブライベートでは結婚し、妊娠悪阻・切迫早産・切迫流産の絶対安静を乗り越え、四十三歳

で出産しました。マタニティーブルーズを経験し、子供のことを学びたく、保育士の資格を取得し、子育てやボランティアに活かしています。

これからも、日々精進し、「食の大切さ」を多くの方々に感じてもらえ、より良い人生が送れるように、食に携わって行けたらと思います。

皆様におかれましては、どうぞご健康とご多幸をお祈りいたします。



専攻科（十九期）
福島真由

私は、二〇一九年に専攻科を卒業し委託会社に就職しました。大学時代に病院実習を経験した際に感じた、「患者様の近くで看る力をつけたい」という気持ちをもちながら、市立病院配属を希望し約五年間業務に励んできました。

大学では病態によって提供す

る食事の違いは学んでいましたが、実際に現場に出て食種・アレルギー対応の大変さや覚えることの多さ、自分自身の仕事の遅れが食事提供時間の遅れに繋がることの重大さを知り時間に追われながら仕事をこなしていました。仕事にも慣れたところに新型コロナウイルスが流行り、ステイホームを強いられましたが、ちようど管理栄養士国家試験を受けようとしていた時期と重なった為勉強に集中することができました。五時から二十時のシフト勤務の中、勉強時間を確保するのは大変でしたが、一年前から対策し過去問を十年分解き間違えた問題はノートにまとめ仕事の合間に繰り返し復習をしていました。職場や周りのサポートのおかげもあり試験は一回で合格できました。夢に一歩近づけた瞬間でした。その後委託会社での勤務を続けながらも管理栄養士としてさらなるスキルアップのために栄養管理業務をしたいと思い転職をし、現在は病院で管理栄養士として働いています。入社後は、右も左もわからない状態で業務を始め周りの方々の知識量や経験には敵わないかでも私自身には何ができるのかと考え「患者様

に寄り添える管理栄養士になる」という目標を掲げ業務に励んでいます。患者様の近くで関わることで改めて感じたことは「食は奥深い」ということです。人それぞれに嗜好があり病院では限られた食材や調理方法、補助食品等で賄えきれないものがあります。特に摂取量の少ない患者様に対しては、患者様や多職種とコミュニケーションをとることで背景を知り新たな食事の提案をしています。また、週三回人間ドックの保健指導も任されています。保健指導では結果を伝え注意した方が良く、そのだけを伝えるのではなく、その人のライフスタイルを考えること、病気についての説明やどうしたら改善しやすいのかを議論づけて伝えることで理解も深まると思っています。また、実際に自分自身の体の中でどのような代謝が起きているか考える場であつてほしいと思っっています。そのためには私自身が知識をつけ理解することが、とても重要であり日々勉強を続けています。まだ管理栄養士としての経験や知識は浅いですが、「食」にこれからも関わり社会貢献ができれば良いと考えています。

「大学で学んだこと」



専攻科(十七期)
鈴木麻友

校友会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は、平成二十八年度に専攻科食物栄養専攻を修了した鈴木麻友と申します。

この度は、この場をお借りして大学と職場で学んだことをお話させていただきます。

私は子供の頃から、人に料理を作ることが好きで食に関わる仕事をしたいと思っていました。高校生になり進路について色々調べているうちに栄養バランスのとれた献立を考え、人々の健康をサポートすることができるとを知りました。叔母が日大の卒業生というご縁もあり、私は食物栄養学科への進学を決めました。

短大時代は忙しく、レポートや実習に追われる日々が続きましたが、そこで得た知識や経験

は、非常に貴重でした。大学で学んでいくうちに、私はアレルギー除去食や代替食品というもの種類の多さに驚き、興味を持つようになりました。特にアレルギー対応の食品は、単に除去するだけでなく、栄養価を保つための工夫が求められます。知識を深めるうちに、商品開発に対する関心が高まりました。

実際、栄養価を維持しながら美味しさを追求する商品開発は、私にはとても魅力的に感じました。そして商品開発に近い研究をしていたのが太田ゼミでした。専攻科では太田ゼミに所属し、大豆タンパク質を用いた研究を行いました。大豆は栄養価が高く、近年、SDGsでも注目されています。大豆を用いる製造過程では、大部分が廃棄物として処理されてしまいます。この廃棄物の再利用を目指し、私は大豆タンパク質を利用した可食性フィルムの開発に取り組みました。この研究では、大豆タンパク質の特性を活かして、食品の包装材料として利用できる生分解性フィルムを開発することが目標でした。可食性フィルムは、包装後に食べることができ、廃棄物を削減し、食品ロスを減少させることが可能です。

研究の過程で、フィルムの強度や弾力性について試行錯誤を繰り返しました。この研究は、後輩へ引継ぎ太田先生が共同研究として論文にしてくださいました。自分の研究が論文になるという貴重な経験をさせていただいたことは私の人生で大きな誇りです。卒業後は、栄養士として様々な現場で経験を積みたいと考え委託業者に就職しました。どの現場でも特に、対象者一人ひとりに合った食事を提供することの重要性を実感しました。個々のニーズに応じた食事の提案や提供は、多くの学びがありました。また、利用者から「美味しい」と言って喜ばれることは、やりがいを感じる瞬間でした。この経験を通じて、現場での柔軟な対応力やコミュニケーション能力が一層磨かれました。

現在はこちらが縁があり、食物栄養学科の助手をさせてもらっています。学生時代にお世話になった御恩を精一杯返せるようこれからも精進していきたいと思



桜栄会の皆様へ

桜栄会の皆様には、日頃から食物栄養学科および専攻科食物栄養専攻の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、全国的に十八歳人口の減少が急速に進むなか、特に静岡県下の少子化は全国平均より深刻な状況もあり、また近年の四年制大学志向などにより、食物栄養学科は過去数年間にわたり入学定員の充足に至らない厳しい状況が続いております。このような状況の下、短期大学部食物栄養学科は、令和六年度四月の入学受け入れを以って学生募集を停止することといたしました。加えて、食物栄養学科の学生が卒業後に進学する専攻科食物栄養専攻についても、令和八年度の入学受け入れを最後に、学生募集を停止することを併せて決定いたしました。また科目等履修生は、令和十年度が最終受け入れとなります。

なお、令和六年度の入学学生を含め、引き続きすべての在学学生が充実した学生生活を送れるよう、学生の教育、進路支援などにつきましては、これまで同様に教職員一同、万全を尽くしてまいります。

桜栄会の皆様におかれましては、これまで本学短期大学部（三島校舎）の教育活動に御理解・御支援いただくとともに格段のご高配を賜りましたこと、衷心より感謝申し上げます。この度の食物栄養学科令和七年度以降及び専攻科食物栄養専攻令和九年度以降の学生の募集停止にいたしました事情を御賢察いただき、何卒御理解承りますようお願い申し上げます。

管理栄養士国家試験対策講座からのお知らせ

第三十九回管理栄養士国家試験は、令和七年三月二日に行われる予定となります。試験に向けての勉強方法は人それぞれかと思いますが、卒業後も仕事と並行しながら目標に向かって皆さんが頑張っていることを嬉しく思います。

本学の対策講座は、コロナ禍以降Zoomを利用し、参加申し込み状況を見ながら八月から週一回六十分程度、配布した資料を使って頻出事項の解説を行っています。

平成二十三年度に立ち上げられたこちらの管理栄養士国家試験対策講座に関しては、引き続き開講いたします。今年度は、動画でのオンデマンド配信を予定しております。また講座に併せて模試を大学単位で申し込み、苦手科目のアドバイスを行います。

合格のためには、管理栄養士の資格を取って将来的にどう活用したいのかを明確にして具体的に決意表明すること。過去問題集一冊を少なくとも三回は解くことが大切です。問題集は様々な出版社から販売されておりますので、自分が使いやすい本を選ぶとよいです。受講を希望される方は、模試注文の都合上、五月の連休明けくらいを目安に食物栄養学科研究室へお問い合わせください。試験までの追い込みを頑張ろうと思っている方はぜひご参加ください。今年度の管理栄養士国家試験を受ける予定の卒業生に関しましても心より応援しております。季節の変わり目に体調を崩さないよう、試験対策に取り組んでください。

学科で卒業生も取得できる資格

《製菓衛生師（国家試験受験資格）》

食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻では、茨城県にある「つくば栄養医療調理製菓専門学校」との連携で、製菓衛生師国家試験受験資格を取得できる通信教育課程を開設しております。食物栄養学科の募集停止につき、今年度の入学希望者を以って来年度からの入学募集は停止することとなりました。

製菓衛生師の資格を取得した卒業生各位、皆様の成功を陰ながら応援しております。

《介護職員初任者研修》

介護職員初任者研修は、旧「ホームヘルパー二級」に該当します。訪問介護員とも呼ばれ、高齢者や心身障害者などの身体介護や家事サービスを提供し、自宅での自立を支援します。厚生労働省が指定する講座を修了することで修得でき、高齢化社会を迎える今のご時世に必要性が高い資格になります。

本講座はニチイ学館と連携した本学科単独の通信講座で、食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻を対象にカリキュラムを編成し、希望者が集まり次第開講予定となります。

「フードアナリスト」四級・三級

フードアナリストは、世界各国の食文化や食空間の演出法、テーブルマナーや食育など、「食」に関するあらゆる知識・教養を幅広く学び、食の事ならば何

を聞かれても開設できる、何を依頼されても執筆できる「食情報のスペシャリスト」を育成するための資格です。幅広い知識を身に付けたフードアナリストは、様々な分野で活動し、その活躍が多くのメディアで注目されています。本学にて一日の受講（認定試験を含む）で四級の資格が取得可能です。今年度は、二月に開講予定になります。また、四級の資格を取得した者は、三級受験資格があり、希望者が集まれば本学にて二日間の受講で取得可能となります。

食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻専任教員・助手紹介

《専任教員》

学科長 高橋 敦彦（病理学・疾病学）
教授 太田 尚子（食品学）
教授 上田 龍太郎（食品衛生学）
准教授 石川 元康

（情報処理演習・公衆衛生学）

准教授 篠原 啓子（栄養教育論）
准教授 葛城 裕美（調理学）
助教 難波 亜紀（栄養学）
助教 小山 ゆう（給食経営管理論）

《助手》

助手 青野 天海（専攻科・二十二期）
助手 長谷川和輝（専攻科・十八期）
助手 鈴木 麻友（専攻科・十七期）
助手 川久 有紀（専攻科・十二期）
助手 片山なつみ（専攻科・四期）

お問い合わせは、食物栄養学科研究室
TEL・・・〇五五―九八〇―〇八四〇
FAX・・・〇五五―九八〇―〇八四六
E-mail:akahashitshiko@nion-u.ac.jp

日本大学国際関係学部校友会会則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は日本大学国際関係学部校友会と称する。

(事務局)

第2条 本会は事務局を静岡県三島市文教町2丁目31番145号に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 本会は会員相互の親睦と融和をはかり母校の発展に寄与すると共に母校建学の理念を社会に拡充することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は前条目的達成のために次の事業を行う。

- 1 会報発行・会員名簿の作成
- 2 会員相互の親睦と融和をはかるための諸事業
- 3 母校の発展興隆に関する諸事業への協力参加
- 4 その他目的達成のために必要な諸事業

第3章 会 員

(会員構成)

第5条 本会は日本大学三島予科・三島教養部・文理学部三島・短期大学部（三島校舎）・専攻科食物栄養専攻・国際関係学部・大学院国際関係研究科の出身者および在籍した者による正会員と幹事会において本会に関係が深く功労があると認められた特別会員・名誉会員並びに準会員である国際関係学部・大学院国際関係研究科・短期大学部（三島校舎）の在学生をもって構成する。

- 2 特別会員・名誉会員並びに準会員は議決権は有しないものとする。

(会 費)

第6条 会員は規程の定めるところにより、会費を納入しなければならない。

- 2 会費及び徴収方法は別に定める。
- 3 特別会員・名誉会員は会費を徴収しないものとする。

第4章 役 員

(役員構成)

第7条 本会に次の役員を置く。

- 会 長 1名
- 副 会 長 若干名
- 幹 事 長 1名
- 常任幹事 若干名
- 幹 事 若干名
- 会計監査 2名

(顧問・参与)

第8条 本会は顧問・参与を置くことができる。

- 2 顧問・参与は幹事会の議を経て会長が委嘱する。

(役員の選出)

第9条 会長は会長・副会長会議で推薦され、総会にて承認を得るものとする。

- 2 副会長は国際関係学部校友会を構成する各同窓会会長或は在学した者の代表者とし会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 3 幹事長は常任幹事から会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 4 常任幹事は各科同窓会代表幹事とし、常任幹事から庶務担当・会計担当を幹事長が指名し、会長・副会長会議に報告するものとする。
- 5 幹事は国際関係学部校友会表彰者或は各科同窓会会長から推薦し、幹事会に報告するものとする。

(任 期)

第10条 各役員の任期は3年とし、再任は妨げない。ただし満80歳をもって定年とする。なお、期間は当該年度内とする。

- 2 欠員が生じたときは、必要に応じて補選し、その任期は前任者の残存期間とする。
- 3 任期満了した場合においても、後任者が就任するまでの間その職務を行う。

(役員職務)

第11条 会長は本会を代表し会務を総括する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 3 幹事長は事務を統括し、本会運営に必要な一切の事務事項を遂行する。
- 4 常任幹事は幹事の互選により選出し、常任幹事会を構成、本会業務の遂行にあたる。
- 5 幹事は幹事会を構成し、本会運営の諸事項の議決にあたる。
- 6 顧問・参与は本会の重要事項につき、会長の諮問に応ずるものとする。
なお、顧問・参与には役員に関する規定を準用する。

第5章 会 議

(会議及び議決方法)

第12条 本会の会議は、総会・会長、副会長会議・常任幹事会・幹事会の4種とする。

2 会議は会長が招集し、議長団はその都度選出する。

3 やむを得ない場合は、常任幹事会及び幹事会をもって総会に代ることができる。

(会議の構成及び開催)

第13条 本会は目的達成のため下記の機関を置く。

2 総会は本会運営上の諸事項についての報告を受けこれを承認する。

総会は年1回開催するものとし会長がこれを招集する。

3 常任幹事会は常任幹事以上の役員を以て構成し本会の執行機関として本会の実質的運営にあたる。常任幹事会は必要に応じて随時会長がこれを招集する。常任幹事3分の1以上の要求があった場合はこれを招集しなければならない。

4 幹事会は総会の代行機関として第14条の事項を付議し、これを議決する。

幹事会は年1回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事3分の1以上の要求があった場合は臨時に招集しなければならない。

5 事務局は幹事長指示のもと会員相互の連絡及び各会議の議事の収録並びに運営に必要な一切の事務を行う。

(総会の審議)

第14条 総会は次の事項を審議し議決する。

2 会則及び重要規定の制定、改廃に関する事項。

3 事業計画に関する事項。

4 予算・決算に関する事項。

5 会長の選任に関する事項。

6 その他第4条に基づいて必要と認められた事項。

第6章 支 部

(支部の設置)

第15条 本会は円滑な発展と交流の促進のために支部を設けることができる。

2 支部の設置条件及び方法は別に定める。

第7章 会 計

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経費)

第17条 本会の経費は、会費並びに寄付金その他の収入を以てこれを充てる。

(会計監査)

第18条 会計監査は本会会計及び財務について監査し、その結果を総会にて報告する。

第8章 会 則

(会則変更)

第19条 本会の会則の変更は総会の議を経てこれを決する。

(会則の遵守)

第20条 国際関係学部校友会は日本大学校友会会則及び支部規程を遵守しなければならない。

(施行細則)

第21条 この会則に必要な細則は会長・副会長会議及び常任幹事会の議決を経て会長がこれを施行する。

第9章 表 彰

(表彰)

第22条 本会の目的及び事業に貢献した者は幹事会の議を経て、これを賞することができる。

2 卒業予定者及び在学生に対する会長賞等の表彰規定は別に定める。

第10章 除 名

(会員除名)

第23条 会員が次の事項に該当した行為があったときは幹事会の議を経て除名することができる。

2 国際関係学部の名誉を傷つけ、また校友としての品位を害する言動があったとき。

3 校友会の秩序を乱したとき。

4 故意または重大な過失により校友会に損害を与えたとき。

付 則 本会則は平成23年8月1日より施行する。

日本大学校友会組織図

日本大学校友会(校友会本部事務局)

都道府県支部(65支部)

北海道ブロック(札幌・旭川・稚内・小樽・帯広・留萌・苫小牧・網走・釧路)
 東北ブロック(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)
 関東ブロック(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・川崎・山梨)
 東京ブロック(東京都第一・東京都第二・東京都第三・東京都第四・東京都第五・
 東京都第六・東京都第七)
 東海ブロック(岐阜・静岡・愛知・三重)
 北信越ブロック(新潟・富山・石川・福井・長野・長野北信)
 近畿ブロック(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
 中国ブロック(鳥取・島根・岡山・広島・山口)
 四国ブロック(徳島・香川・愛媛・高知)
 九州ブロック(福岡・北九州・佐賀・長崎・佐世保・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

学部別部会(17部会)

法・文理・経済・商・芸術・国際関係・危機管理・スポーツ科・理工・生産工・工・医・歯・松戸歯・生物資源科・薬・通信

職域別部会(5部会)

全国桜師会・桜門会計人会・日本大学法曹会・全国桜門スポーツ部会・桜門社長会

桜門会(74団体)

海外特別支部(10支部)

韓国・ブラジル・ロサンゼルス・台湾・サンフランシスコ・スペイン・ニューヨーク・インドネシア・ミャンマー・バンクーバー

日本大学国際関係学部校友会組織図

国際関係学部校友会
(旧三島同窓会)

三島豫科
三島教養部
文理学部(三島)

短期大学部
桜文会(国文・英文)
商経科同窓会(1・2部・ビジネス教養)
桜栄会(栄養・家政・食栄・生活・専攻科)
工科同窓会(建築・機械)

国際関係学部同窓会